

中国太郎の発掘日記

島根県埋蔵文化財調査センター
TEL0852-36-8608
江の川改修発掘調査事務所
TEL0855-52-7195

島根県埋蔵文化財調査センターからのお知らせです



6月から開始した江の川河川改修事業にともなう発掘調査も約6ヶ月が経ちました。次第に寒さが厳しくなる中で現在も発掘調査を行っています。本号では、2つに分けている調査区のうち3区についてご紹介します。

もりばらしものほう 森原下ノ原遺跡（江津市松川町八神）

森原下ノ原遺跡3区では、調査区の大部分が平安時代以降（9世紀以降）と江戸時代（17世紀）の河川跡となっていて、人々と江の川のかかわりを知ることができます。河川による浸食を受けず、もともとの地形が残っている部分では、弥生時代（約2,000年前）の土器を多く含む層を確認し、

その下から約30の柱穴の跡を検出しました。これらは地面に掘った穴に柱を立てた掘立柱建物

と考えられます。住居とされる^{たてあなだてもの}竪穴建物跡は見つかっていませんが、付近に集落が存在していた可能性もあります。

今後は、現在並行して調査を進めている1区と合わせて集落のひろがりや江の川の氾濫と人々の生活がどのように関係していたのかなど、より詳細な遺跡の様子を明らかにしていきます。

おねがい

調査中の遺跡は深く掘り下げた部分があり、大変危険です。事故防止のため調査区内に立ち入らないようお願い致します。

見学を希望される方は上記発掘調査事務所までご連絡ください。



発掘調査箇所の位置

～発掘調査トピックス～



平安時代（9世紀）以降に発生した江の川の氾濫跡の写真です。白い砂が2m以上も堆積し、かなり大規模なものだったようです。江の川はこれまで幾度となくこうした氾濫を繰り返してきたと考えられます。



3区では弥生時代後期（1～2世紀）を中心とした多くの土器が出土しました。中には一個分の破片がそろっているものもあり、破片同士を接合することによって当時の姿を復元することができそうです。



土器が多く出土した地層の下には固くしっかりとした粘土の地盤が残っており、そこから約30の柱穴が見つかりました。これらは弥生時代後期（1～2世紀）のものと考えられ、この場所に集落が存在していた可能性があります。